



# 八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報  
(令和7年1月10日) 第29号



学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」 八鹿青溪中 HP

## 新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。令和7年も八鹿青溪中学校教職員一同全力で学校教育にあたりますので、変わらぬご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

第3学期の始業式後に以下の表彰伝達式を行いました。

- ・第58回 小・中学生作文詩集「但馬の子ども」詩部門 特選(神戸新聞社賞) 1名  
生活作文部門 入選 1名
- ・中学生税についての作文コンクール 兵庫県租税教育推進連絡協議会賞 1名  
養父市長賞 1名
- ・全国書画展覧会 書の部 筆都大賞 1名
- ・JA 共済小・中学生書道コンクール半紙の部、条幅の部 努力賞 3名
- ・第52回 兵庫県アンサンブルコンテスト 但馬地区大会 金賞 打楽器三重奏 吹奏楽部



## 3学期始業式式辞

「皆さん、あけましておめでとうございます。

ちょうど1年前は、石川県の能登半島を中心にして起きた大地震、東京の羽田空港で起きた航空機衝突事故、さらには、福岡県北九州市小倉で起きた大規模火災などがあり、たいへんな年明けとなったのを覚えています。その中でも、能登半島地震の被災地は、秋に大水害にも見舞われ、今後もまだまだ深刻な状況が続きそうです。

さて、今回の年末年始ですが、皆さんはどのような冬休みを過ごしたのでしょうか。私は、12月26日に、三田市で開催された卓球部団体戦の県大会に応援のために出かけました。続いて27日には、滋賀県長浜市で開催された男子ソフトテニス部個人戦の近畿大会に応援のために出かけ、小林・井上ペアの1回戦突破の様子を見てきました。滋賀県長浜市は長浜城や日本一大きな琵琶湖など、とても美しい所でした。男子ソフトテニス部や顧問の先生のおかげで、私なりの小旅行をすることができ、すごく喜んでいます。

さて、今日から令和6年度の3学期が始まります。3学期は、1年間で最も短い学期であり、3年生で40日あまり、1・2年生で50日程度しか登校する日がありません。つまり、うかうかしていたらあっという間に終わってしまうという、ある意味、恐ろしい学期であると私は常々考えています。

まず、3年生に期待すること。全員が進学希望と聞いていますが、どうか確実に自らの進路実現を果たすように志望校をしっかりと見定めてください。まだ若い15歳の春に、「不合格」を経験することは避けましょう。そのためには、担任の先生や保護者の意見にきちんと耳を傾けることが大切であることはもうすでに話をしてきたとおりです。



年末にはインフルエンザが流行してしまいましたが、人生のうち、最も健康管理に気を配らないといけないのが、今年の冬であるのかもしれません。

次に2年生。3年生が進路実現を果たしていく様子をよく見ておいてください。1年後は皆さんも進路実現のための決断をしなくてはならないのです。高校に行くのか、行かないのか、行くとしたらどこの高校を受験するのか。今のところ、まだ詳細までは決める必要はありませんが、勉強をしないことには進路実現には結びつかないことを覚えておいてください。また、早寝早起きをして、毎日休まずに学校へ来ることも継続させてください。つまり、受験のための基盤を今のうちにしっかりと固めなくてはならない3学期と考えてください。

最後に1年生。1年生は、入学してから9ヶ月が過ぎ、ずいぶんたくましくなってきました。毎朝3階まであいさつに上がるようにしていますが、3年生や2年生に比べると、空いている席が少ないのが1年生の特徴です。特に1年1組は満席のことも多いです。これからさらに寒い時期を迎えますが、この元気を続けられたら、きっと素晴らしい2年生になれるものと信じますし、2年後の進路実現に向けて確実に一步を踏み出せると考えます。中学校までは義務教育ですからたとえ受験をしなくても入学できますが、中学卒業後はそういうわけにはいかないことを覚えておいてください。

2学期の終業式では、八鹿青溪中学校の秋は素晴らしい季節になったことを話しました。今日から始まる3学期が令和6年度の締めくりにふさわしいさらに素晴らしい学期になることを大いに期待して、3学期始業式の式辞とします。」

※式辞の後、以下の3点について全校生徒へ伝えました。

- ① 地域の皆様のご協力のもと、野球部保護者会により全国大会出場記念石碑が建立されたこと。
- ② 養父市出身プロ野球選手の坂本誠志郎様より養父市内各中学校へボールを1ダースずつ頂いたこと。
- ③ 伊藤照美教育支援員が年末に怪我を負ってしまい、しばらく休暇をとること。



## 1月の「草庵先生の教え」

今月の池田草庵先生の教えは「人は欺くべきも、自らは欺くべからず」であり、「人はあざむくことはできても、自分をあざむくことはできない」という意味になります。つまり、自分のことは自分が一番分かっているはずで、自分を決してごまかすことはできないということです。言い換えると、自分の気持ちに正直に生きるということが大切だという教えでもあります。今年も八鹿青溪中学校の生徒はこの教えを念頭に生活します。

1月 校訓 貫徹 慎独 創造

人は<sup>あざむ</sup>欺くべきも、  
自らは<sup>あざむ</sup>欺くべからず

人はあざむくことできても  
自分をあざむくことはできない。

